

講義名	専門基礎演習（人）			授業形態	
担当教員	山本 隼年	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

1年生の「自己発見とキャリア開発」などの基礎的な科目の学修の発展科目として位置づけ、社会人基礎力に必要なビジネスマナー・文書、パソコンスキル、プレゼンテーション能力などを身につけます。また、コミュニケーションワークを通して、学科学生相互の交友関係を拡げます。さらに、人間健康学科の演習テーマの基礎を学び、2年生後期から始まる研究演習（ゼミ活動）へと繋がります。

到達目標

グループワークやディスカッションを通して、仲間と協力して活動できるようになる。ビジネスマナーを身につけるために、言葉遣い、メール送受信、および簡単な文書作成ができるようになる。レポート作成やプレゼンテーションを通して、字面などを分かりやすくまとめて、伝えることができるようになる。自身の学修目的に応じた研究演習（ゼミ活動）が選択できるようになる。

提出課題

課題の内容や作成形式等の詳細については各担当教員が授業中に示しますので、各教員の指示に従ってください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

各自の課題に対して、講評を行います。必要に応じて、個別対応を行います。

評価の基準

受講態度等の平常の取り組み姿勢および課題提出物や発表の内容等による総合評価を行います。

履修にあたっての注意・助言他

演習講義のため、受け身ではなく、積極的な取り組みが期待されます。演習講義のため、出席は講義よりも重視されます。やむを得ない理由で欠席の場合は、事前に担当教員と相談してください。遅刻は、講義開始後10分以内とし、2回遅刻で1回の欠席とします。授業の1/3（計5回）以上を欠席した場合は評価対象外となります。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

適宜、資料を配布します。

授業計画

1. 全体ガイダンス、研究演習（ゼミ活動）とは
2. 研究演習（ゼミ活動）へのいざない スポーツ・運動処方学、健康づくり学
3. 研究演習（ゼミ活動）へのいざない スポーツ心理学、スポーツ科学
4. 研究演習（ゼミ活動）へのいざない スポーツイベントマネジメント、スポーツプロモーション
5. 研究演習（ゼミ活動）へのいざない 野外活動、地域スポーツ、ジュニア育成
6. ビジスマナー：メールの書き方、送り方など
7. ビジネス文書の書き方：部活動の送付状の書き方など
8. レポートの書き方：文献の書き方など
9. グラフ作成
10. プレゼンテーション演習：テーマ選定と発表資料作成
11. プレゼンテーション演習：発表資料作成&口頭発表
12. コミュニケーションワーク イベント企画
13. コミュニケーションワーク イベント準備
14. コミュニケーションワーク イベント開催
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> E：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> W：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> G：グループワーク
<input type="radio"/> P：プレゼンテーション	<input type="radio"/> L：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：（2時間程度）
レポート、グラフ作成、プレゼンテーション資料作成ではPCを使用するため、ワード、エクセル、パワーポイントなどの使用方法を理解しておく。コミュニケーションワークを円滑に行うために、担当するイベントの内容および進め方を事前に把握しておく。

復習：（2時間程度）
各演習の学習内容や教員からのアドバイスを参考に、要点をまとめておく。同じグループの学生とイベント内容について話し合い、次の授業までに改善案を抽出しておく。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

パソコンの専修的な操作ができる、人と円滑なコミュニケーションをとることができるなど、本学学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・基礎能力（豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン）を身につけることができることから、本学のディプロマポリシーの達成に大きく貢献できる科目である。本演習を通して、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身につけ、健康・スポーツ関連産業の理解を深めることができることから、本学科のディプロマポリシーの達成に大きく貢献できる科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

responFormsなどを使用し、学生間とのコミュニケーションツールとして活用する。

実務経験の有無及び活用

なし

備考